

## 令和6年度 宮城県立西多賀支援学校の研究概要 ～令和7年1月末現在～

運営委員氏名 ( 佐藤 智幸 )

研究テーマ	「児童生徒の特性に応じたコミュニケーション能力を 引き出す支援の在り方」 － 適切な実態把握に基づいた実践をとおして －
研究目標	「適切な実態把握」をとおして、児童生徒の目標設定と実践を進めること で、児童生徒の特性に応じたコミュニケーション能力を引き出す支援の充 実を目指す。
研究内容・方法 研究計画等	<p>研究の内容と方法</p> <p>現職教育研修会</p> <p>事例研究</p> <p>実態把握 (段階表やチェックリスト等の活用) → 目標設定 → 支援の検討 → 実践 → 事例研究報告書の作成</p> <p>チェック・共有 情報交換 → 中間報告会 → 報告会 → 研究全体会 (年度末)</p> <p>研究グループ活動</p>
研究の概要 ・ 研究経過 ・ 研究成果等	<p>・ 本研究では、実態把握により捉えた児童生徒の特性や課題を基に、コミュニケーション能力に視点を当てた目標の設定とコミュニケーション能力を引き出す支援の検討をして実践を行う。個人またはグループで事例研究を行い、事例研究報告書をまとめる。</p> <p>・ 実態把握については、「適切な実態把握」を行うために、担任による日々の行動観察以外に段階表やチェックリスト等を活用したり、研究グループ活動の場で複数の目でチェック・共有したりする。</p> <p>・ 研究グループ活動については、学部やコースごと5つの小グループを設定して意見交換や情報共有を行ってきた。現在、年間4回のうち3回実施している。段階表やチェックリスト等を活用して行った実態把握の結果をグループでチェック・共有したり、目標設定やコミュニケーション能力を引き出す支援の検討をしたりしてきた。中間報告会では、事例研究報告書等の資料を活用しながら、グループ内で実態把握から実践までの取り組みについて発表・共有を行った。研究グループ活動を設けたことで、「児童生徒の新たな一面に気付くことができた」や「目標を絞ることができた」等の声が挙がっている。</p> <p>・ 校内研究に関する研修会として「障害のある児童生徒のコミュニケーションの力を引き出す支援について」のテーマで、外部の講師の先生から講義をしていただいた。児童生徒のコミュニケーション能力を引き出す指導法や実践例等をお話いただき、校内研究の実践の一助とすることができている。</p>

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。